

# 中国の壮大な歴史を体現する「三国志」と 異国へ嫁いだ美しき悲劇の象徴「王昭君」が、繊細な手法で蘇る—

2023年夏、新潮劇院が贈る京劇公演は  
感動の名場面と美女の悲劇が交錯する二本立て!  
劉備と趙雲の絆を描く「三国志」と

王昭君の壮絶な運命を追う物語が織りなす舞台に  
熟練の京劇演者たちが息をのむような演技を披露します。

華麗な装束と派手なメイクが彩る京劇の舞台は、目が離せない圧倒的な迫力と美しさに溢れています。  
時空を超えた感情の共鳴が生まれるこの舞台で、あなたも京劇の魔法に酔いしれませんか?



## 昭君出塞(しょうくんしゅつさい:王昭君の旅立ち)

中国の四大美女の一人である王昭君の美しさと悲劇的な運命を描いた演目。彼女の内面の葛藤や苦悩がにじむ優雅ながら悲哀のある唱、馬に引かれて荒野を進む様子を表現するパントマイムなどが見どころで、伝統的な中国の美意識が凝縮されています。

[あらすじ]

前漢元帝時代、宮女たちは皇帝の寵愛を受けるため宮廷画家に賄賂を贈り、皇帝に見せるための美しい似顔絵を描いてもらうのが常でした。しかし、王昭君はただ一人賄賂を贈らなかったため醜く描かれてしまい、絶世の美女ながら皇帝の目に止まりませんでした。

ある時、匈奴の王が宮女の一人を妻に所望した際、皇帝は似顔絵を見て、最も醜い者を送り出すことに。結果、王昭君が匈奴への嫁として選ばれ、旅立つことになります。



## 借趙雲(しゃくちよううん:趙雲を借りる)

蜀の名君・劉備が稀代の英雄・趙雲を迎え入れる感動的な場面を描いた名作。二人はお互いを認め合いながらも異なる勢力に所属し、心の内を語り合う会話劇が展開されます。さらに、張飛のコミカルな芝居、将軍が出陣する様式「起朝(チーバー)」、迫力ある唱など、京劇ならではの見どころが盛りだくさんです。

[あらすじ]

義を貫き、乱世を鎮めるために戦い続ける劉備と、乱世を治める名君を探し求めている趙雲。かつて戦場で共に戦った二人は互いを認め合いながらも、趙雲は公孫瓚に仕えていたため、劉備の元には留まりませんでした。

ある日、劉備は曹操軍の猛将・典韋によって攻められ、公孫瓚に援軍を求めます。その際、趙雲の派遣を切望しました。道中で劉備と趙雲は心を通わせ、趙雲は劉備こそが乱世を治める名君であると確信し、劉備の軍に加わるのでした。

しかし、劉備の忠実な弟分である張飛は、見た目が優男の趙雲が援軍と聞いて不満を訴えます。そんな中、典韋の軍勢が迫り……



京劇レクチャー:加藤 徹

明治大学教授。1963年、東京都生まれ。日本はもとより中国でも認められる京劇研究の第一人者。主著に「京劇」「梅蘭芳 世界を唄にした男」「絵でよむ漢文」など  
「京劇城」<https://www.isc.meijiacp/~katotoru/KGJ.html>



演出:張春祥(ちょうしゅんしょう)

一般財団法人日本京劇振興協会代表理事。祖父の代から京劇を家業とする一家に生まれ自身も北京京劇院で活躍。1989年来日後は俳優・演出・振付師として活動。中島みゆき「夜会」、蜷川演出「ざらばわが愛・霸王別姫」、宝塚歌劇団「蒼穹の昴」他



## ■ 在京京劇団「新潮劇院」について

祖父の代から京劇を家業とする俳優・張春祥が在京京劇俳優とともに世田谷区にて1996年設立。伝統京劇の上演と並行し、新作京劇の発表や日本の芸術団体とのコラボレーションなど、先進的な芸術表現にも取り組み、京劇普及と日中文化交流に邁進しております。

- ・侯華澤
- ・高夢理
- ・肥土大毅
- ・吉岡里華
- ・川藤智徳
- ・平野俊一
- ・鈴木優太
- ・林太郎
- ・餅田源太郎
- ・藤本大和
- ・金子洋太郎
- ・青山桃伍

司会:張島梅 字幕:安藤弘人  
照明:山口 洸(office soup)  
演出:張春祥 企画・制作:梅木俊治



北沢タウンホール  
世田谷区北沢2丁目8-18  
小田急線「下北沢」徒歩5分